

第85号
平成25年2月15日
高二 岩端晃太郎
高一 山口和晃

読書三昧

甲南中学・高校
図書館
図書委員会
芦屋市山手町
31番3号

つむぐ 橋本 紡さんを囲む会



四月 図書委員結成

六月 「被災地に本を贈ろう」
灘校との図書委員交流会

十月 「橋本紡さんを囲む会」

十二月 第二六回生徒図書委員研修会

一月 図書委員選定図書

二月 読書三昧を発行

今年度図書委員の 主な活動

十月六日に二百万部
を売り上げ、アニメ・
ドラマ・実写映画化さ
れた有名作家橋本紡さ
んを本校にお招きし、
甲南生だけでなく、三
田・関学・小林聖心・
夙川の生徒の方々にも
来て頂き、橋本さんの
作家になつたきつかけ
や我々中高生の為にな
る道徳的なお話を聞か
せて頂きました。

橋本紡さんを 囲む会 参加者の感想

高一 金岡信宏

僕はこの講演を聞いて、自分とは違つ考えを持つた人や違つた生活をしている人達と接して色々な考えを持つた人がいるんだなと改めて世間の広さを知りました。そして、橋本さんの話を聞いて自分もどんどん新しいことに挑戦していこう、もしそれが失敗しても何度も挑戦してみようという意欲を持つことができ、楽しく元気をもらいました。
またこのような機会

があれば行つてみたい
です。

高一 吉田卓真

始めは、先生に頼ま
れて何となく行つて、
「橋本って誰なん？」
的なノリで正直思つて
いて、その人の本も読
んだことがなかったの
で、「マジだるいわ」
と思つていました。
そして橋本さんが来
て、話はじめて思つ
たのが、
「やっぱり作家さんは言
葉を大切にしてんねん
な」と思いました。
また、「作家は賢く
ないとダメ」とよく聞
くのですが橋本さんは
賢いどころか天才だつ
たそうなので、やつぱ
り本当なんだなと思
いました。
橋本さんの話の中で
「自分のすることには
責任をもつてする」
「やるよ決めたらそこ
とんやる」という言葉
にとても感銘を受けま
した。

高一 松本一樹

「橋本紡さんを囲む
会」が図書館で開催さ

れる。

超有名作家じゃない
かそう思いました、そ
れと同時に成功者じゃ
ないかと思いました。

成功者の話を直に聞
くなんてなかなか無い
経験だろつ、そう思つ
た僕は「橋本紡さんを
囲む会」に参加しまし
た。他校の生徒も集め
て盛大とまでは言えな
いが、なかなか華やか
な談話会になりました。
今回の談話会のコン
セプトは、「自分で考
える事」でした。大し
た年月を生きているわ
けでは無いので僕がこ
んなことを言つのは生
意気かも知れませんが、
今の学生とか若い人に
は自分で考えろと言つ
ことが苦手であるよう
に思われます。

そんな中「自分で考
える事」を第一にした
今回の談話会は非常に
有意義であったと思
います。

橋本さんは自身の経
験から「自分だったら
どうするのか」「どう
してそうするのか」な
どの僕たちに対して難
しい課題を与えました。
勉強も大切かも知れ
ませんが結局将来、社
会に出て重視されるの
は勉強により培つた自
分自身の総合的な能力
と自分で考える事が出
来るかどうかだと思つ
ています。そういう意味
では今回の談話会は、
成功者・作家・人生の
先輩として僕たちにとつ
て大切なことを教えて
頂いて本当にいい経験
だったと思います。

目次

1. 橋本紡さんを囲む会
2. 図書委員研修会
3. 灘甲戦 読書会
4. 本を贈ろうプロジェクト

・店頭選書
・編集後記



図書委員研修会の報告

~2012 12/15(土) in 神戸女学院~

「本を通じて人と繋がる」
高1 岩端晃太郎

去年の十二月、私は図書委員の仕事の一環として、『図書委員研修会』へ行ってきました！

研修会は神戸女学院 中等部、高等部で開かれました。女学院に入ったのはその時が初めてでしたが、あまりの校舎の美しさに「瞬目的を忘れましたね。また女学院には『シエイクスピアガーデン』という庭園があります。ここはオリーブなどシエイクスピアの作品に登場する約100種類の植物で形成されている美しい庭園です。女学院生徒の話では「ガーデンの花からシエイクスピアの作品に興味を持つ人もいる」とか。外観も含めてまさしくお嬢様学校でした。機会があれば行ってみたいかも。

さて研修会の内容です。参加者は女学院、灘、六甲、関学などから50人前後で中1か



ら高2までが参加していた様々な学校の意見を聞くことができました！これは、私以外に研修会に参加した図書委員の感想です。『芥川賞や、直木賞を取った作品について話が出た。読んだことがない話もあったので、読んでみようと思った』
『とてもいい経験だった。このような場を増やしていきたい』
研修会の内容としては、まず5分間で自校の図書館活動の紹介。甲南はパワーポイントで図書館について紹介して

きました。5分ではうちの図書館の魅力を全部伝えきれなかったですね。他校の紹介も聞いてきました！

その後は班に分かれ生徒だけで自己紹介と情報交換を行いました。『インターネット時代の図書館利用』というテーマで、図書委員ができることについて話し合いの時間です。まず簡単に班のメンバーの紹介。私の班は須磨学院、女学院、神港学園、灘、関西学院、仁川学園、と私の7人でした。その中でリーダーを務めてくれたのが、須磨学園の高2の女の子。リーダーを務めるだけあって、皆のことを引く張つてくれました。お疲れ様です。灘の生徒さんと女学院の生徒さんはいかにもインテリッって感じで、意見には説得力がありました。ここで一つ女学院の生徒さんから名言を記しておきます。
「知識量は、読書量に比例する」だそつです。皆さん本を読みましょつ。関西学院からは女の子が来ていて、彼女

はこの班唯一の中学生でした。神港学園の生徒さんは酸いも甘いも噛み分けたよつな感じですかね。割と渋めなイメージです。仁川学園の生徒さんはポケットから『悪の教典』が出てきたことが印象に残つてます。本を持ち歩くと予想外の空き時間に読めるので非常に便利です。電子書籍と違い、教員に見つかつても何も言われません。最近私も、彼を見習つて、本を常備してます。そんな私を入れ、7人で会議

会議の時間は約1時間でした。最初に自己紹介をして、次にさつきの各校の図書館紹介に対する質問と自分の学校の図書館の問題点や意見タイム。そこであった各校の図書館紹介を書いていきます！まず須磨学園！ここにはアイパッドが2台導入されています。これには青空文庫のリーダーアプリ(著作権切れの作品を読める)や本の朗読など、図書系アプリ以外に、『太陽系図鑑』や『元素図鑑』



であり、日本初の制服ならぬ制キータイ制度を導入していたり、中学入學時に一人一台ノートパソコンを買つ学校なので、甲南ではあまり参考にならないと思つておいでください。そして今回の議題であるインターネット時代の図書館利

用という観点から見ると、確かに利用者は増えるけど紙の本を手に入る機会が少なくなるじゃないかな、と思つたり。アイパッドでは著作権切れの作品しか読めないといふデメリットから最近の小説、特にライトノベルを入れ、データではなく紙の本に触れ合う機会を増やそうという働きが図書委員の間で行われているといつのが須磨学園図書委員からの報告でした。

次は灘！ここにはライトノベルをほとんど置いてないよつです。図書委員の活動としてはおすすめの本のリス

トアップやこだわりの作家特集などをしてます。甲南と交流があり、灘甲戦の時、図書委員交流会で本について議論を交わすそうです。私は運動部なので参加出来ませんが、文化部や部活に入っていない図書委員はなるべく参加するようにしましょう。

お次は女学院！女学院の図書室は実際に見学してきました。神戸女学院には図書館がいくつもありその敷地内には大学図書館もありますが、今回私たちが見学させてもらったのは中学部にある図書室です。ここは甲南図書館と比べるとごんまわりとしていて、アットホームな雰囲気図書室でした。おもしろいのは日本の古典文学（源氏物語など）の貸出し冊数が多いところです。女学院だから多いのか女子校だから多いのかはわかりませんが、他にも司書さんと生徒の仲が良く、本を読むためではなく司書さんと話すために来る生徒もいて、いつで



書委員ではなく、図書部員なんです。規模は大きく、夏に二回合宿があり、東京の国立国会図書館へ行ったりと、千刈へ合宿に行ったりと、とても活動が盛んです。他にも週末に県立図書館に見学に行ったりしています。とても楽しそうな部活でした。

も賑やかな図書室だそうです。またそうやって話に来た生徒に司書さんが本を勧め、そこから本を読み始めるケースも少なくないとか。

つぎは仁川学園！この図書館はフーニングセンターという名称で自習室が45席あり甲南の図書館とは大きく違った図書館です。恐らく甲南とはかなり違った雰囲気の図書館なんでしょう。また、朝のHRでは10分間の読書時間があるらしいです。

次は関西学院！この図書館は一番活気があります。彼らは図書委員ではなく、書委員です。規模は大きく、夏に二回合宿があり、東京の国立国会図書館へ行ったりと、千刈へ合宿に行ったりと、とても活動が盛んです。他にも週末に県立図書館に見学に行ったりしています。とても楽しそうな部活でした。

が多い。対応策はいくつか考えられています。がデメリット（費用面など）もありなかなか実行できません。甲南でも結構な数の本がなくなっていて、シリーズものがなくなつた場合、続きを買わないという対策を取っています。「第一話しか読めないよ、ってジュンク堂みたいですね。学校紹介はここまでです。長々書いてきました。が、この会議のテーマを忘れていたわけではありませぬ。しっかりインターネット時代の図書館利用についても話してきました。これに関して私達の班が出した結論とキヤッチコピーは、タイトルが『本を通じて人と繋がる』です。女学院の『司書さんと生徒の仲が良く、司書さんに勧められて本を読み始める生徒が多い』こと、また『こつこつとみんなで話し合えたのは本があつたからだ』という全員の回合に対する感謝から決定しました。本を通して人と知り合、また人を通して新

しい本に出会うことはとても新鮮でももしろみがあります。そしてそれは、私が図書委員になつた理由の一つでもあります。この研修会はそついつた意味でも大変価値のあるものでした。見知らぬ人と本について話し合うなんて何が面白いのか分からなかつたと思つた人べつに固く考えなくていいんです。いくら偏差値高い学校に通つても相手は同じ高校生で、ツイッターやつたり、綾瀬はるかがかわいいとか、彼女ほしいとか、本以外でも共通の話題なんていくらでもあります。単純な話です。帰宅部で家に帰るより図書委員として交友の輪を広げる方がよっぽど有意義でそして楽しい。また本には年齢は関係ありません。本を通してなら中一と高二、高一と五十歳が対等に自分の意見を交わすことが可能なのです。年下と気軽に話せる話題の一つとして、同年代の友を増やすツールとして、また、年上と対等に話せ

る数少ない土儀として、一冊読んでおけば絶対得します。絶対です。これは図書委員の岩端が保証します。今すぐ

灘甲戦 読書会

六月の灘甲戦の日、運動部や、クラスの友達達が応援やスポーツが行われているところとは別に、ひっそりと図書館では甲南と灘の図書委員が集まり、交流会が行われました。内容は「アルジャーノンに花束を」を読み、それについての読書会でした。「アルジャーノンに花束を」とは、32歳になつても、幼児の知能しかないチャールズ・ゴードンが、大学の先生の手によって頭を良くしてもらつたために、毎日日本スミのアルジャーノンと過酷な検査を受ける日々が続きます。

(ラベル Yキイ)



そして、脳外科手術を受けたチャールズを待ち受けていた世界の中で、様々な問題に立ち向かつていく話です。今回は主人公の心情の変化を読み取りながら、リラククスした雰囲気で行われました。始めはあまり話がうまく進みませんが、次第に、さまざまな意見が飛び交い、時間を忘れるほど灘校生と楽しい一日を過ごせました。



本を贈ろう プロジェクト

昨年の四月から六月にかけて図書委員は、被災地に587冊の本を送りました。

その後、多賀城市立第二中学校と松島第一小学校からお礼の手紙を頂きました。どちらも図書館に展示してあります。第二中学校の図書委員長さんのお礼の手紙の内容を下に全文掲載しました。



多賀城市立第二中学校から送られた手紙と寄せ書きを見てください。

先日は、たくさんの本をいただきありがとうございました。本をいただいたことは、放送で全校生徒に伝え、少しでも早く貸し出しができるよう準備し、少しずつではありますがやっと生徒に手にとってもらえる状態になってきました。新たに図書室に置いた本を手に取り、借りていく人が日に日に増えています。

私たちの学校の図書室はさほど大きくはなく、本の数も少ないですがそれでも昼休みにはたくさんの方が利用します。そんな図書室もあの東日本大震災でほとんどの本が落ち、利用できる状態ではなくなりました。

三月十一日は卒業式でした。卒業式が終わりに、家に帰宅し家でテレビを観ていたときに突然あの大きな揺れが襲ってきました。初め、すごく長い地鳴りが聞こえとんどん大きくなり、立っているのも儼然しないほどの揺れでした。机が倒れるのを、植木鉢が「ガシャン、ガシャン」と落ちていくのを私は呆然と眺めていることしかできませんでした。揺れが継続した時間は三分ほどのことですが、私自身の体感では十分以上続いた気がします。

大きな揺れがおさまった後、部屋は足の踏み場もありませんでした。地震後一ヶ月以上は学校が休校となったため、その一ヶ月間の学校の様子は私にはわかりません。先生方が荒れた教室を片付けてくださったため、一ヶ月後私たちが学校に行った時にはすっかり元通りでした。

そして、あの震災から一年以上が過ぎ、たくさんの方が届きました。時間が経つに連れ、ニュースでの報道も少なくなってきたなかで、東北から何百キロも離れた関西の学校からの贈り物。とてもとても嬉しく思いました。お手紙に書いてあった言葉と同じになっただけですが、私たちも本当に、人と人とのつながりの暖かさ、そして大切さを感じました。

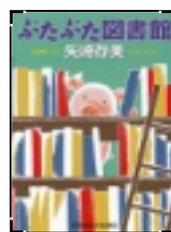
これらの本が皆さんの心の支えとなれば幸いです。甲南高等学校、中学校の生徒の皆様そして保護者の皆様、たくさん本をありがとうございました。

この二八二冊ものたくさんのお礼の手紙、私たちの笑顔と勇気になっています。

図書委員 店頭選書

十二月十七日、図書委員数名で、三宮のジュンク堂の書店へ新しく図書館へ入れる本を買いに行きました。その中から一冊、『ぶたぶた図書館』という本を紹介いたします。市立図書館で働く寿美子が大好きの中学生と共に、「ぬいぐるみおとまり

会」という企画を立ち上げその企画からイベントを成功させるまでを様々な登場人物の視点で描いた物語です。イベントの計画が進むに連れて、物語の謎は少しずつ深くなっていきます。まさか、一冊で完結しないとは思っていませんでしたが、なかなか続きが気になる本だと思えます。表紙からも、ファンタジックな感じは伝わるとは思いますがなかなかシユールなところが



あります。
『ぶたぶた図書館』
著者 矢崎存美
2012年 光文社
*現在図書館にはシリー
ズ十三巻所蔵

編集後記

今年の読書三昧いかがでしたでしょうか。今回はじめてこの読書三昧を作成することに携わりましたが、やはりこういうものを作るのは難しいですね。はい。

前年度までの先輩方の記事などを参考に作成していきましたが、それでもやはり記事を作ることができたのは、友達みんなが手伝ってくれたからに違いありません。

このように、この読書三昧は多くの人の手によって作られたものなので、一人でも多くの人に読んでもらえたらいいなと思っています。

協力者

- 高1 岩端晃太郎
- 高1 伊藤嘉哉
- 高1 金岡信宏
- 武仲雄輝
- 中村文俊
- 松本一樹
- 雪本貴広
- 吉田卓真



高1 山口和晃